

公開実用 昭和 58— 126023

19 日本国特許庁 (JP) 11 実用新案出願公開
12 公開実用新案公報 (U) 昭58-126023
51 Int. Cl. 識別記号 庁内整理番号 43 公開 昭和58年(1983) 8 月26日
A 45 C 13.10 6455-3B

審査請求 有

(全 頁)

54 靴用金具

21 実 願 昭57-23793
22 出 願 昭57(1982) 2 月22日
72 考 案 者 鈴木雄二

71 出 願 人 東京都北区田端新町 3-16-4
錦産業株式会社
東京都台東区北上野 1 丁目15番
1 号
74 代 理 人 弁理士 清水修

明 細 書

1. 考案の名称

鞆用金具

2. 実用新案登録請求の範囲

鞆本体に固定するための固定部材を一面に固定し他面に固定した嵌合部材に嵌合突起を突出した固定体と、この固定体の嵌合部材を適宜の保持力をもつて嵌合突起とともに揺動自在に挿入し得る開閉部材と、嵌合突起を着脱自在に嵌合し得るとともにこの嵌合状態で開閉部材に挿入可能な嵌合舌片を一端に突出形成し他端に固定部を設けた嵌合体とから成ることを特徴とする鞆用金具。

3. 考案の詳細な説明

本考案は鞆の掛止金具、ショルダーベルトを鞆に固定するための吊金具等に用いることができる鞆用金具に係るものである。従来鞆用掛止金具、吊金具等は種々のものが存在したがいずれも不完全なもので実用上問題を有していた。例えばある種のもは開錠のための取手が表面に突出しているため、不用意な押圧によつて開放されてしまい

公開実用 昭和58-126023

使用上の安定性に欠けるものであつた。又ある種
のものは靴本体に固定した金具の挿入穴に、靴の
かぶせに取付けた嵌合体から外方直角に突出した
係合爪を挿入して嵌合を行なうものであるため、
挿入穴に係合爪が適格に挿入されるまで金具の表
面に係合爪が擦るため、表面を傷付けてしまい体
裁を悪くするとか、靴のかぶせから直角に突出し
た係合爪が折損し易い等の欠点を有するものであ
つた。

本考案は上述の如き欠点を除去したものであつ
て、靴本体に固定するための固定部材を一面に固
定し他面に固定した嵌合部材に嵌合突起を突出し
た固定体と、この固定体の嵌合部材を適宜の保持
力をもつて嵌合突起とともに摺動自在に挿入し得
る開閉部材と、嵌合突起を着脱自在に嵌合し得る
とともにこの嵌合状態で開閉部材に挿入可能な嵌
合舌片を一端に突出形成し他端に固定部を設けた
嵌合体とから成り、嵌合部材の嵌合突起に嵌合舌
片を嵌合した状態で開閉部材を摺動させ、嵌合舌
片を嵌合突起とともに被覆すれば表面は平滑とな

り、外部からの押圧等により不用意に開放されることがないとともに金具の表面を嵌合舌片で傷付けたり、折損を生じる可能性もなく、安全で安定した使用を可能とする。

以下本考案の一実施例を図面に於て説明すれば、1は固定体で、靴本体2に挿通折曲して固定するための固定片3を一面に突出した固定部材4を設け、この固定部材4の他面との間に摺動間隔5を形成するよう平面凸型の嵌合部材6を固定部材4に固着し、この嵌合部材6の表面には横方向に嵌合突起7を突出している。8は閉閉部材で、前記摺動間隔5に挿入するための係合片10を一對形成するとともに嵌合部材6を適宜の保持力をもつて嵌合突起7とともに摺動自在に挿入し得るよう係合片10に連続して上端開口の箱状に形成し、嵌合部材6には一定範囲摺動自在となるよう固定されており、表面には鋭穴11を設けている。12は係合発条で、嵌合部材6裏面の挿入溝13と固定部材4の間隔に設置し、その一部を摺動間隔5に弾性的に突出し閉閉部材8の係合片10端

公開実用 昭和58— 126023

面に押圧し、開閉部材8の滑動抑制と、係合片10の凹部14、15に係合させることにより目視によることなく係合を手で感知し得るようにしたものである。この係合発条12は種々のものを用いることができるが第4図、第5図に示す如く板発条を使用する場合と、第6図、第7図に示す如くコイル発条の両端に駒16を固定したものを採用しても良い。17は嵌合体で、嵌合突起7を着脱自在に嵌合し得る嵌合孔18を穿設した嵌合舌片19を設け、この嵌合舌片19は嵌合突起7を嵌合した状態で開閉部材8内に挿入し得るよう形成する。21は固定部で、嵌合体17の一部を構成し両側壁22、23と連結壁24によりコ字型に形成し、連結壁24の外面に上記嵌合舌片19を突出するとともにコ字型の対峙間隔25に軸のかぶせ26を挿入固定する。嵌合体17は軸のかぶせ26の外、軸の任意の目的位置に固定することができる。例えば固定体1、開閉部材8を軸本体2の側面部27上方に固定し嵌合体17をショルダーベルトの両端に固定すれば取外し自在のシ

ヨルダーベルトを得ることができる。又固定部材4の固定片3は上記実施例の如く折曲使用するものではなく、他の異なる実施例に於てはボルトを固定片3に代えて固定部材4に突出し、ナットを使用して固定体1を靴本体2に固定するよう構成しても良い。

本考案は上述の如く嵌合突起に嵌合した嵌合舌片を開閉部材内に出入し得るものとしたから、開閉部材を嵌合突起に嵌合舌片が嵌合した後上昇せれば、第1図にも示す通り開錠、施錠のための突起物は全く存在しなくなるから、外部からの不用意な押圧によつて開放されるような虞れが全くない。又無理に挿入したり外表面に設けた鍵穴に係合爪を挿入したりする必要もないから部材の折損とか、擦傷等を発生させることもなく長期間の安定した使用を可能とするものである。

4. 図面の簡単な説明

第1図は靴に取付けた状態を示す斜視図、第2図は拡大斜視図、第3図は固定体と開閉部材の嵌合状態を示す平面図、第4図は固定部材を取除い

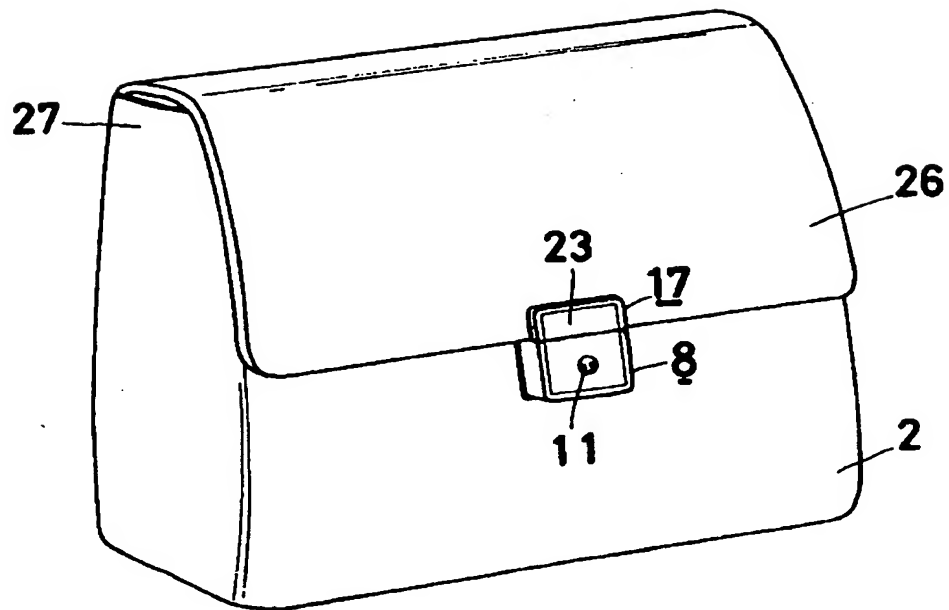
公開実用 昭和58-1 126023

た状態の嵌合部材と開閉部材の裏面図、第5図は
同上開閉部材の揺動状態を示す裏面図、第6図は
嵌合部材と開閉部材の他の異なる実施例を示す裏
面図、第7図は同上開閉部材の揺動状態を示す裏
面図である。

- | | |
|-----------|------------|
| 1 ……固定体 | 2 ……靴本体 |
| 4 ……固定部材 | 6 ……嵌合部材 |
| 7 ……嵌合突起 | 8 ……開閉部材 |
| 1 7 ……嵌合体 | 1 9 ……嵌合舌片 |
| 2 1 ……固定部 | |

実開昭

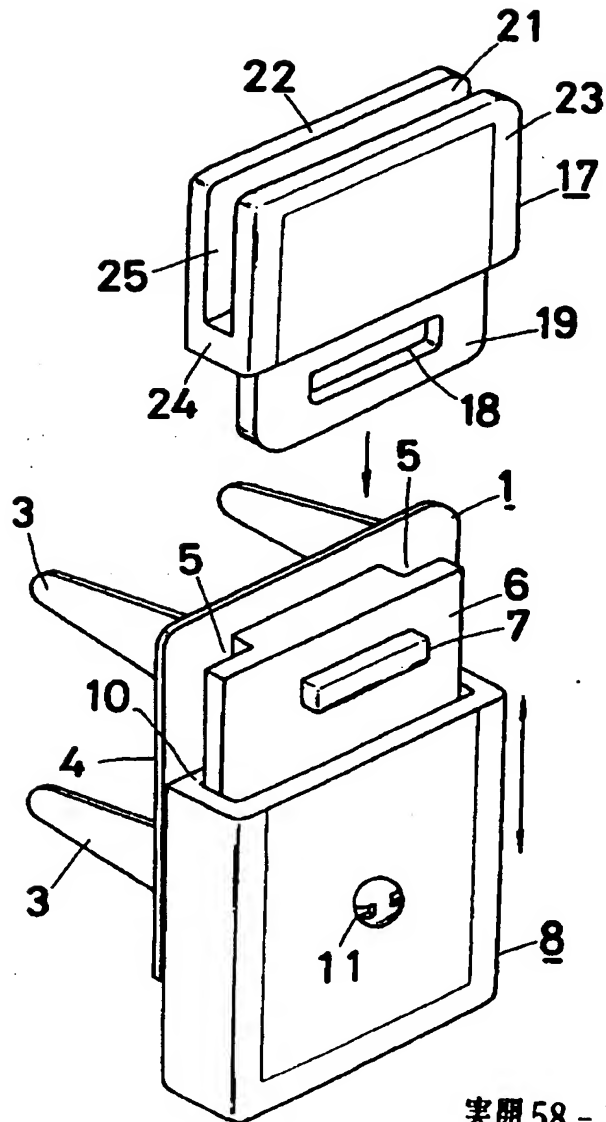
第1図



214
実開58-126023
清水 修

公開実用 昭和58-1, 126023

第2図

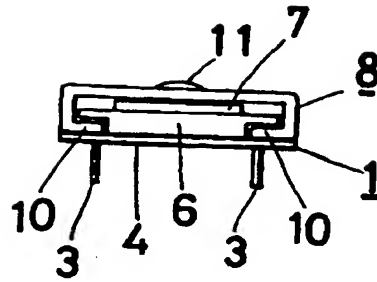


215

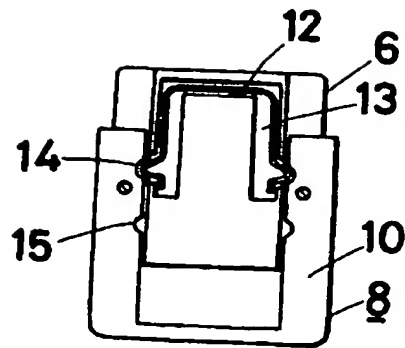
実開58-126023

特許士 清水 修

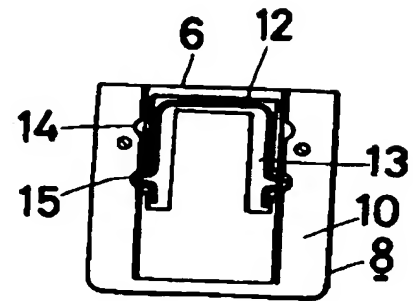
第3図



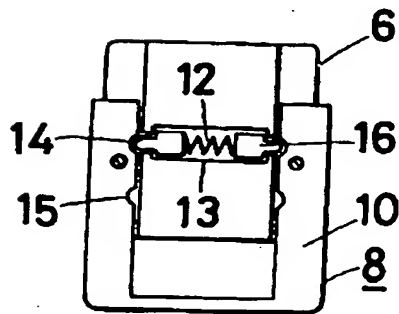
第4図



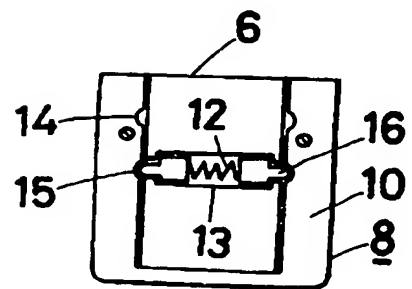
第5図



第6図



第7図



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☒ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☒ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.